



# ぴろぴろごより No.9 2014.12.2

先日個人面談のときに、「面談が年一回に増えたんですね。一人30分も時間とって話している、大変ではありますか？」と気遣ってくれた方がいらしていました。石原さんに今年初めて面談を年一回から二回に増やし、じっくりお話しする機会が増えました。鬼んぼのひろびろを始めるには、スタッフ2名で保護者会も個人面談も行うことは難しい。月一回のひろびろごよりで、保育者の鬼んぼ日ごう保育の中じいお話ししていることなどを紙面でお伝えするようになっています。それをも「お便りにはおのれに書いたらいいわね。」とよくこのことについて話して、「色々と鬼んぼがふくらむように、スタッフの人数も増えたいことから、お泊まり会と保護者会を始めました。保護者会にはスタッフの鬼んぼ日々の保育についてスタッフ側から丁寧にお話しする機会を増やしたいが、まだ個々の子どもについてじっくりやれる場がない」と感じているように、さらにスタッフも増えたことから個人面談の機会も増えました。この時間は鬼んぼのひろびろにお互いよく知るの貴重な時間です。「この子はまたどうにお家へ帰るのか」とか、子どもに関することについて、お母さん自身の悩みや不安が打ち明けられることも。この子にはこんな素直なところがあるよ、こんな育ちをしていますよ、と「その子」についてたくさん話せる場がある。お家のこと、友だちのこと、その子の周囲について語り合ううちに「その子」自身のことが見えてくることあります。小さな集団で話し合うのもいいかも...と近々学年別の保護者会も始めることになりました。

一方、スタッフの人数が増えれば子どもたちの様子も日々の鬼んぼのひろびろ、保育中の様子などもスタッフみんなで見守る大切さを、スタッフのミーティングもそのことにしました。5年前ミーティングを始めた頃は月2回、その後今すぐ二のこを共有したい、その日に保育に入っているスタッフにも早くこれを伝えたい...という声が増えて、今では園に一回ミーティングを行っています。日々の保育に関することはもちろん、予定している行事の中身を今週末、スタッフのシフトを確認する、たすけあひ毎週話し合うことが山のようにあり、終わる頃にはもうもう暗い。年ごとに個人面談前には一人ひとりの子どもについて、スタッフ各々が感じていることをたくさん出しあひ、じっくり丁寧に話し合ひ、その子の成長について、細かく共有してから面談で詳しくお話しできるように心がけています。年度末にも、一年間その子が園生活に関わりの中で育つ姿を、じっくり話し合ひ一枚のカードにまとめ、お家の方に送っています。

ひとつ表紙を披露すると、個人面談でどのスタッフがどの子どもを担当するのかが、誰がどの子のカードを執筆するのかが、組み合わせは無数にあり、しかもまんまんなく均等に担当するつもりで「正」の字が書いてある過去のスケジュール表が保存して。(なぜかこのスケジュールはすぐとまづさんが取ってくださっていて)面談担当、カード担当を決める上にはこの表とくらべてこじり紙を貼って確認していらした様子...感謝です！ そんな雰囲気もあり、面談はじいお話しもかたやよりなく色々とスタッフが担当しているというわけですね。

保護者会も面談もミーティングもじいお話しは個々の子どもについてよりよく理解したい、じっくり話し合ひたいという思いで始めました。今感じているのはお互いの相互理解、信頼感につながる話していること。「お互いのいいところは、保護者会、面談の場合はスタッフと保護者の皆さん、ミーティングの場合はスタッフ相互のことです。」ひろびろという大きな家の中は保護者とスタッフ、そのスタッフ同士が信頼しあひなければ、子どもも同じようにいいこともよく過ごせない。少しはあれ？と思った時には、お互いをわかりあひたいためにじっくり話し合ひ、子どもたちのためにどんなことが必要なのか意見を出しあひ、保護者会も面談もスタッフのミーティングも、いっしょに鬼んぼのひろびろにしていきたいと思っています。また来年度、子どもたちが36名に増える大きな家か...お互いに声をかけあひていきたいと思います。

美和子

## ＊ おおきいくみだより ＊

日一日と寒さが増し、秋から冬へ、季節が移り変わっていくのを感じますね。フカフカの落ち葉がたっぴりの森の中、子どもたちの遊びは深まっています。

ある大きいくみの日、みんなでお散歩に出掛けました。よく通る道から、森の中に足を踏み入ると大きな倒木がありました。あ、という間に子どもたちの格好の遊び場になりました。上によじ登り始めたのですが、少し朽ちてきている所があり、乗り場所によってはバキッと折れてしまいます。大きいさんが中心となり「ここは危ないから乗らない方がいいよ」「こっちを通ろう」と自然と声を掛け合ひたり、手を引いたり、あげたりと協力し合ひて進みます。自分の足の感覚を信じ、一歩一歩確かめながら進むので表情は真剣そのものでした。

その後倒木は、大きな大きなベンチへと変わり、しばらくみんなが腰かけながら楽しいおしゃべりが続きました。(中間がいれば、初めての場所も 鶴の場所にも早変わりです。車に森を進むと長いツルがちょろちょろブランコのように吊り下がっていて大人気の遊び場に！「ポップコーンみたいにポンポンはねておもしろいよ」といきいきとした言葉も聞かれました。代わる代わるツルのブランコに乗り、楽しそうに歓声をあげる姿は、まるで自然とたわむれているようでした。

また別の日の、ライジングフィールドでの出来事。1日を過ぎたらしばしば「広場は、広い芝生がひろがっている場所、特に遊具やおもちゃ等はありません。しかし、子どもたちは「X-J」をいろいろにひろげて、ごっこ遊びをたっぷり楽しんでます。石や木をいじりながら「ここは遊園地」「ここは噴火村」と、どんどんにぎやかな街ができていました。「雨が降ってきたぞ！」と土をパラパラ降らせたりと、それぞれが新しいアイデアを出し、刺激を受け合ひ、その場所で遊んでいる人たちの目の前には、大きな大きな街がひろがり、ムフムフとお話ができあがって、その世界にみんなが入り込んでいくかのような感覚がありました。

他にも、おまじろで木の芽を植んで「くらべにを塗りましょ」と唇につける真似をしたり、「ツル」がくまをやっておめかししたり...と遊びが尽きることはありません。

公園のアスレチックや既成のおもちゃも楽しいですが、自然の中にある物は子どもたちの発想次第で同じ位、またはそれ以上おもしろい遊び道具に変わってしまうのだなあ、発見の日々です。また、遊び方に決まりがないので、木の枝や花びら、木の葉、泥はその時々でいろいろな剣や、魔法のステッキ、おいしいご飯...他にも無限に、自由に遊べるのも楽しい所なのだと思います。おもちゃだけに頼らず、自ら楽しい遊びを作り出すひろびの子どもたちの力は、毎日森の中で、仲間たちと過ごす中で培われているのでしょうか！

ひろびの森の中では、その日その日で、いろんな場所、いろんなごっこ遊びが繰り広げられています。おかあさんごっこ、ライオンごっこ、病院ごっこ、剣闘ごっこ...それぞれが「夜」に決まって長い時間、思う存分遊び込んでいます。そんな時、初めは別々のごっこ遊びだった人たちがいつの間にかお話が混ざり合ひ、おかあさんごっこの人たちが近くの病院へ出掛けたら、剣闘ごっこの人たちがレストランごっこの場所、木鶴をとっていったりと、お互いを尊重しながら関わり合ひる姿があります。一人一人の遊びが満たされているからこそ、周囲にも興味があひろがり、友達との関わりもひろがっていくようです。

冬の寒さに体を慣らしながら、これから季節もたくさん遊びましょね！

淳美

# お知らせ

今年もいよいよ節足を迎え、子どもたちにとっては、待ち遠しいクリスマスやお正月が続きますね。待ち遠しい気持ちに、心もワクワク膨らませられますように。

## 保護者会のお知らせ

日時 12月9日(火) 9時30分頃～

場所 鳥井原の森(ひろびの場所) 知っている方も何人かいらしいので  
何人かお呼びくだい出立して下さい。9時20分過ぎに最終スワップも  
あり。

## 学年別保護者会のお知らせ

学年ごとにこの学年ならではのテーマもいろいろ。今回も集まりがいろいろある  
ように思っています。場所は1月に改めてお知らせします。  
<1月> 1/9(月) <どんぐり> 1/12(金) <大)> 1/26(月) <松ぼっくり> 1/29(木)

## 「小豆のクリスマスの集い」のご案内

日時 12月19日(金) 1時30分～2時過ぎ

場所 ひろびの森

子ども達がクリスマスの準備がスタートして、小豆の集いで何をしようかと決まっています。25分頃  
頃お迎えに伺います。駐車場近くでお集まり下さい。充分暖かい格好がいらして下さい。

・12月15日(木)が12月より「一時保育」から「途中入園」に変更。お知らせします。  
詳しくは、保護者会にお伝えします。

・延期になった森めぐりに12月7日(日)に行います。持ち物は、録音機、飲み物、お弁当など。  
参加できる方は人数をお知らせ下さい。

・12月のアート日 8日(月) 15日(月)  
えいご会 10日(水)  
お料理 11日(木)

・くるりの日は、お天気の良い日にはお休みです。

・お着替えバッグに、フリーススリッパ、冬用のズボン、フリース、厚手の靴下、毛糸の靴。  
ネックウォーマーなど、必要なのは履物を入れて下さい。お願います。

## 田畑だよ

いつもありがとうございます。春に田植えした稲の穂を  
田んぼの苗床に踏いたあの日から、田んぼの刈り取り、田んぼの  
春先を経て、稲刈り、ほぐし、脱穀、米すり... そして、口に入ると新米と、この  
日のつややかなお餅。お米は食べられずに残るまで「この行程がある」と、口に  
入れたときのうれしさはひとおこす。新米を炊き立てに薪ストーブの羽釜のそばで、  
湯気を吸い込む。何人かの声も「あーおいしい!」「おいしいね...」という声も何度か  
羽釜からシューシューと上へ湯気を思いやり吸い込んでいます。「おいしい」という言葉を聞いて、  
食べることを好きに「どんぐりさんたちは何をしてきて、「おいしい?」「もう食べた?」  
と質問攻め。「うん、うん」と笑ってまた吸い込んでいく。くりさん達を見ても?? 表情のどん  
ぐりさんたち。真実を吸い込んでみて、空太くん「おいおいね...」とつな。‘おいしい’  
の意味がわかったかな? お昼にはみんなでピカピカの新鮮なお米をわいわいいただきました。  
わらをまわると木をまく間に水を入れ始めた田んぼは、冬の間も水たまりの生きもののためのすみか。  
餌場になります。半分凍った水の下で、日光を浴びるにやるとドジョウたちも動き回っ  
ています。  
美和子

## ひろびの森の動物たち あいあだ〜木だ? <11月アカネズミ>

森に住む赤褐色の小さなネズミ。絵本などにもしばしば登場することがありますが、実際に  
みてもとてもかわいらしく、クリッとした目が印象的なネズミです。

以前、私が前月にご紹介した「ヤマネ」の調査をしていた時にこんなことがありました。  
晩秋の森にかけた巣箱で冬眠をする個体を探していたのですが、ある巣箱に  
の巣がびっしり(40こほど)つまっているのをみつけたのです。その木の実は子どもたちも大  
好きの「アブラチャン」というピー玉小くらいの実でした。でも、これはヤマネのしわざでは  
ありません。ヤマネは歯が弱く、固い木の実は食べられないのです。では一匹誰か?  
犯人(?)をつきとめたため、私は巣箱の横にカメラをしかけました。一晩たつて、朝でかけて  
みると、びっくり!! たくさんつまっている木の実は、全てなくなっていたのです。

ビデオカメラの映像をみてみたら... そこには1つづつ、何度も巣箱から外へアブラチャン  
を運ぶアカネズミの姿がうつっていたのです。

これからやってくる長く寒い冬の前にヤマネの巣を間借り(?)して  
蓄えていたアブラチャンの実。しかし、突然、小さなもの(カメラ)が巣箱の  
前に現れたので、びっくりして引退きさせたのでしょう。

アカネズミさんに食べさせたなあ... と思いつく、冬の蓄えをこんなに  
しているのだということ、知りたがってみたいような気がした。ついでに、  
おともさんも、冬の蓄えは万全ですか...? 私は... うーん?  
菜花恵



(足跡はしほのあとがくまも)